

令和5年度

中学生の「税についての作文」入賞作品

(国税庁・全国納税貯蓄組合連合会 共催)

関東信越国税局長賞

健康と未来を支える税金

宇都宮大学共同教育学部附属中学校 二年 岩佐 葵

チクリと腕に針を刺す痛みに続き、薬剤が身体に入っていく痛みがじわりと染み渡る。今年の夏、私は子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐ予防接種をした。HPVは、性的接触のある女性であれば五〇%以上が感染するとされている一般的なウイルスであり、近年では若い女性の子宮頸がん罹患の増加が問題視されている。だが、この子宮頸がんは「予防接種で防げる唯一のがん」でもあるため、私は資料を読み家族と相談した上で、HPVのうち9種類のウイルスの感染を防ぐことができる9価ワクチンを接種した。

実は、この9価ワクチン、今年の三月までは全額自己負担で接種する必要があった。その費用は三回接種で約九万円とかなりの高額であった。そのため、公費負担の対象である2価、および4価ワクチンを接種したり、予防接種そのものを見送る人も多かった。姉もその一人である。しかし、より多くの種類のウイルスを予防できる9価ワクチンが四月から定期接種として公費で受けら

れることになり、私と姉は無料で予防接種を受けた。もちろん、製薬会社からワクチンが無償で提供されているわけではない。予防接種に携わる医師もボランティアではない。正規の医療費が発生しているはずだが、私たちは一円も支払う必要はなかった。それはなぜか。代わりに税金から支払われているからだ。子宮頸がんワクチンだけではない。乳児のころから受けている数多くの予防接種にも税金が充てられている。実際に私が生まれてから接種してきたワクチンを調べてみた。すると、ポリオや結核、風しんなど十三種類にもものぼっていた。費用を気にすることなくワクチンを接種し、命にかかわるような病気を予防することができているのは予防接種のおかげであった。この予防接種は個人の健康を守るためだけではない。多くの人が予防接種を受けることで免疫を持つているからこそ、日本国内に感染者が少なく、感染が起こったとしても流行しない状態を保つためである。私たちが毎日を健康に安心して過ごしている日常は、税金の上に成り立っているのだ。私は改めて税金の大切さとその恩恵の大きさを感じた。

中学生の今は納税する機会が少ないが、今後社会人になるにつれ税金として納める額は大きくなっていくだろう。また、超高齢化社会に突き進む日本は、医療費や年金などの社会保障費がますます増大していくことが確実視されており、さらなる増税も予想される。くわえて、納税は国民の義務であり、強制的に支払わされるというマイナスイメージを持ちがちである。しかし、そこで思考停止するのではなく、その税金が何に使われているのか、どのような恩恵を私たちは享受しているのかと再考する機会にしたい。そして、健康で豊かな生活と明るい未来を支えるために、納税という社会貢献をしていきたい。